

令和 2 年度  
財務書類報告書

岩内地方衛生組合

## —目 次—

1. 地方公会計の概要	1
(1) 新地方公会計制度導入の目的	1
(2) 官庁会計と新地方公会計制度の違い	1
(3) 民間の企業会計と公会計の違い	1
(4) 統一的な基準による財務書類の概要	2
(5) 財務書類の内容	3
2. 令和2年度 岩内地方衛生組合財務書類 実数分析	5
(1) 貸借対照表	5
(2) 行政コスト計算書	9
(3) 純資産変動計算書	12
(4) 資金収支計算書	14
3. 令和2年度 各項目実数分析	17
(1) 貸借対照表にかかる項目	17
(2) 行政コスト計算書にかかる項目	20
参考 地方公会計における資産	

# 1. 地方公会計の概要

## (1) 新地方公会計制度導入の目的

地方公共団体の会計制度は、地方自治法等により、その調整方法や処理方法が規定されています。これらは、民間企業で採用されている「発生主義会計」に対して、「現金主義会計」と呼ばれ、現金の収入と支出の記録に重点を置いたものとなっています。

しかし、現金主義会計だけでは、地方公共団体の資産や債務の実態をつかみにくいことから、発生主義的な考え方を取り入れた決算資料の作成が求められていました。

### ■地方公会計の目的

- 「発生主義・複式簿記」といった企業会計的要素を取り込むことにより、資産・負債などのストック情報が把握できる。
- 現金主義の会計制度では見えにくいコストを把握し、自治体の財政状況等をわかりやすく開示できる。
- 資産・債務の適正管理や有効活用といった、中・長期的な視点に立った自治体経営の強化が可能になる。

## (2) 官庁会計と新地方公会計制度の違い

地方公共団体の会計は、単式簿記・現金主義によるもので、「現金」という1つの科目の収支のみを記録するものですが、一方、新地方公会計制度による財務書類では、現金の収支に関わらず、1つの取引について、それを原因と結果の両方からとらえ、二面的に記録することにより、資産の動きや行政サービスの提供に必要なコストを把握することができるようになります。

## (3) 民間の企業会計と公会計の違い

新地方公会計制度は、民間企業の会計手法を取り入れたものですが、地方公共団体と民間企業とは会計制度の目的が異なります。民間企業の目的は利益獲得であるため、例えば損益計算書は、対応する収益とコストを差し引いて適切に期間損益を計算し、企業経営に資することを目的としています。

これに対し、地方公共団体は利益の獲得を目的としませんので、経常行政コストと経常収支の差引きで表される純経常行政コストは、利益の概念ではなく、地方税や地方交付税などの一般財源や資産の売却などで賄うべきコストを示すこととなります。

## (4) 統一的な基準による財務書類の概要

統一的な基準による財務書類の概要は以下のとおりです。(企業会計の書類を括弧書きしています。)

- 【貸借対照表】(貸借対照表) →略称：B S (Balance Sheet)
  - ・基準日(年度末)時点における財政状態(資産・負債・純資産の残高及び内訳)を表示したもの
- 【行政コスト計算書】(損益計算書) →略称：P L (Profit and Loss statement)
  - ・一会計期間中の費用・収益の取引高を表示したもの  
→現金収支を伴わない減価償却費等も費用として計上
- 【純資産変動計算書】(株主資本等変動計算書) →略称：N W (Net Worth statement)
  - ・一会計期間中の純資産(及びその内部構成)の変動を表示したもの
- 【資金収支計算書】(キャッシュ・フロー計算書) →略称：C F (Cash Flow statement)
  - ・一会計期間中の現金の受払いを3つの区分で表示したもの

### ■決算書体系図



## (5) 財務書類の内容

### ①財務書類の作成範囲

財務書類の作成の範囲は以下の通りとなります。

財務書類名称	対象会計範囲
一般会計等財務書類	一般会計
	財政健全化法において対象としている範囲
全体財務書類	一般会計等財務書類
	特別会計（一般会計等に含まない会計）
連結財務書類	全体財務書類
	一部事務組合
	広域連合
	地方公社
	第三セクター

すべての自治体において、一般会計等財務書類、全体財務書類、連結財務書類の3種類が公表されることとなります。岩内地方衛生組合においては下記の財務書類範囲に伴い、作成しております。

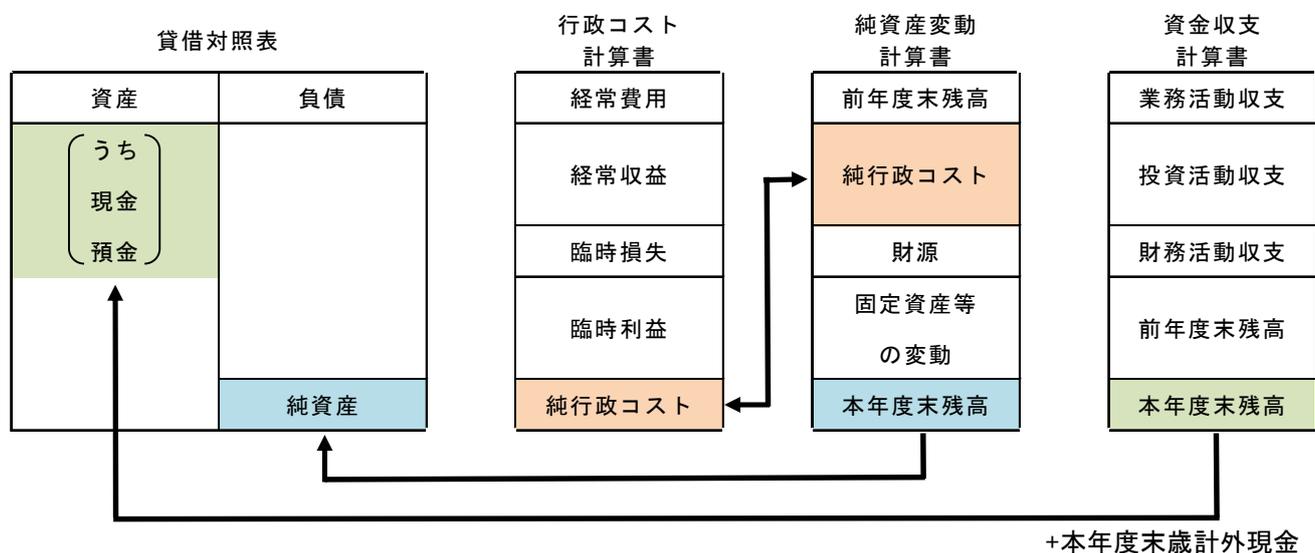
#### ■岩内地方衛生組合における財務書類の範囲

一般会計等	一般会計
-------	------

## ②財務書類の種類

【財務書類の体系（4表）】と附属明細表で構成されます。

### ■財務書類4表構成の相互関係



- 貸借対照表の資産のうち「現金預金」の金額は、資金収支計算書の本年度末残高に本年度末歳計外現金残高を足したものと対応します。
- 貸借対照表の「純資産」の金額は、資産と負債の差額として計算されますが、これは純資産変動計算書の期末残高と対応します。
- 行政コスト計算書の「純行政コスト」の金額は、純資産変動計算書に記載されます。

## 2. 令和2年度 岩内地方衛生組合財務書類 実数分析

### (1) 貸借対照表

貸借対照表とは、基準日時点における財政状態（資産・負債・純資産の残高および内訳）を表示したものです。

#### ■貸借対照表(B/S)の概略図

資産の部（これまで形成した資産）		負債の部（将来世代が負担する金額）	
固定資産	(1) 事業用資産 庁舎、学校、保育所、体育館、公営住宅、 地区集会所など	固定負債	(1) 地方債 国や金融機関からの借入金
	(2) インフラ資産 道路、公園、橋梁、上下水道など		(2) 退職手当引当金 将来見込まれる退職金額
	(3) 物品 車両など		(3) その他の固定負債 長期未払金、損失補償等引当金など
	(4) 投資その他の資産 基金、有価証券、出資金など	流動負債	(1) 賞与等引当金 翌年度夏期賞与の当年度負担額
流動資産	(1) 現金預金 現金、預金		(2) その他の流動負債 翌年度償還予定の地方債、預り金など
	(2) 基金、未収金など 財政調整基金、未収金など	純資産の部（現在までの世代が負担した金額）	
		純資産	

資産は岩内地方衛生組合がこれまでに住民サービス提供のために形成し、今後も住民サービス提供のために利用される財産です。

財産形成に係る財源が地方債等であれば負債に、市町村税や国・県の補助金等であれば純資産に計上されます。

具体的には以下の通りです。

#### (1) 資産

学校、道路など将来の世代に引継ぐ社会資本や、基金など将来現金化が可能な財産

#### (2) 負債

地方債や退職給付引当金など将来の世代の負担となるもの

#### (3) 純資産

過去の世代や国・道が負担した将来返済しなくてよい財源

① 令和2年度貸借対照表（単位：千円）

借方		貸方	
科目	一般会計等	科目	一般会計等
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	5,431,777	固定負債	64,263
有形固定資産	5,431,777	地方債等	58,253
事業用資産	5,431,777	長期未払金	-
土地	1,336	退職手当引当金	6,010
立木竹	-	損失補償等引当金	-
建物	7,801,055	その他	-
建物減価償却累計額	△2,370,614	流動負債	10,739
工作物	-	1年内償還予定地方債等	6,175
工作物減価償却累計額	-	未払金	-
船舶	-	未払費用	-
船舶減価償却累計額	-	前受金	-
浮標等	-	前受収益	-
浮標等減価償却累計額	-	賞与等引当金	4,564
航空機	-	預り金	-
航空機減価償却累計額	-	その他	-
その他	-	負債合計	75,002
その他減価償却累計額	-	【純資産の部】	
建設仮勘定	-	固定資産等形成分	5,667,737
インフラ資産	-	余剰分（不足分）	△260,842
土地	-	他団体出資等分	-
建物	-	純資産合計	5,406,894
建物減価償却累計額	-		
工作物	-		
工作物減価償却累計額	-		
その他	-		
その他減価償却累計額	-		
建設仮勘定	-		
物品	34,219		
物品減価償却累計額	△34,219		
無形固定資産	-		
ソフトウェア	-		
その他	-		
投資その他の資産	-		
投資及び出資金	-		
有価証券	-		
出資金	-		
その他	-		
投資損失引当金	-		
長期延滞債権	-		
長期貸付金	-		
基金	-		
減債基金	-		
その他	-		
その他	-		
徴収不能引当金	-		
流動資産	50,120		
現金預金	50,120		
資金	50,120		
歳計外現金	-		
未収金	-		
短期貸付金	-		
基金	-		
財政調整基金	-		
減債基金	-		
棚卸資産	-		
その他	-		
徴収不能引当金	-		
繰延資産	-		
資産合計	5,481,897	負債及び純資産合計	5,481,897

※数値は、四捨五入しているため、合計値が一部合致しない場合があります。

これまでに一般会計等においては約 54 億 82 百万円の資産を形成してきました。そのうち、純資産である約 54 億 7 百万円（98.6%）については、過去の世代や国・県の負担で既に支払いが済んでおり、負債である約 75 百万円（1.4%）については、将来の世代が負担していくこととなります。

②貸借対照表前年対比 (単位：千円)

科目	一般会計等		
	R1	R2	増減値
【資産の部】			
固定資産	5,614,796	5,431,777	△ 183,019
有形固定資産	5,614,796	5,431,777	△ 183,019
事業用資産	5,614,164	5,431,777	△ 182,387
土地	1,336	1,336	0
立木竹	-	-	-
建物	7,801,055	7,801,055	0
建物減価償却累計額	△2,188,226	△2,370,614	△ 182,387
工作物	-	-	-
工作物減価償却累計額	-	-	-
船舶	-	-	-
船舶減価償却累計額	-	-	-
浮標等	-	-	-
浮標等減価償却累計額	-	-	-
航空機	-	-	-
航空機減価償却累計額	-	-	-
その他	-	-	-
その他減価償却累計額	-	-	-
建設仮勘定	-	-	-
インフラ資産	-	-	-
土地	-	-	-
建物	-	-	-
建物減価償却累計額	-	-	-
工作物	-	-	-
工作物減価償却累計額	-	-	-
その他	-	-	-
その他減価償却累計額	-	-	-
建設仮勘定	-	-	-
物品	34,219	34,219	0
物品減価償却累計額	△33,587	△34,219	△ 632
無形固定資産	-	-	-
ソフトウェア	-	-	-
その他	-	-	-
投資その他の資産	-	-	-
投資及び出資金	-	-	-
有価証券	-	-	-
出資金	-	-	-
その他	-	-	-
投資損失引当金	-	-	-
長期延滞債権	-	-	-
長期貸付金	-	-	-
基金	-	-	-
減債基金	-	-	-
その他	-	-	-
その他	-	-	-
徴収不能引当金	-	-	-
流動資産	43,660	50,120	6,460
現金預金	43,660	50,120	6,460
資金	43,660	50,120	6,460
歳計外現金	-	-	-
未収金	-	-	-
短期貸付金	-	-	-
基金	-	-	-
財政調整基金	-	-	-
減債基金	-	-	-
棚卸資産	-	-	-
その他	-	-	-
徴収不能引当金	-	-	-
繰延資産	-	-	-
資産合計	5,658,456	5,481,897	△ 176,559

※数値は、四捨五入しているため、合計値が一部合致しない場合があります。

科目	一般会計等		
	R1	R2	増減値
<b>【負債の部】</b>			
固定負債	58,622	64,263	5,642
地方債等	50,628	58,253	7,625
長期未払金	-	-	-
退職手当引当金	7,994	6,010	△ 1,984
損失補償等引当金	-	-	-
その他	-	-	-
流動負債	11,235	10,739	△ 496
1年内償還予定地方債等	6,132	6,175	43
未払金	-	-	-
未払費用	-	-	-
前受金	-	-	-
前受収益	-	-	-
賞与等引当金	5,103	4,564	△ 539
預り金	-	-	-
その他	-	-	-
負債合計	69,857	75,002	5,146
<b>【純資産の部】</b>			
固定資産等形成分	5,850,756	5,667,737	△ 183,019
余剰分（不足分）	△262,156	△260,842	1,314
他団体出資等分	-	-	-
純資産合計	5,588,599	5,406,894	△ 181,705

※数値は、四捨五入しているため、合計値が一部合致しない場合があります。

前年度と比較すると、一般会計等において資産は約1億77百万円（3.1%）の減少、純資産は約1億82百万円（3.3%）の減少、負債は約5百万円（7.4%）の増加となりました。

## (2) 行政コスト計算書

行政コスト計算書は、1年間の行政運営コストのうち、福祉サービスやごみの収集にかかる経費など、資産形成につながらない行政コストを業務費用として①人件費、②物件費等、③その他の業務費用、④移転費用に区分して表示したものです。

行政コスト計算書は、企業会計でいう損益計算書にあたるものです。ただし、公会計でいう行政コスト計算書は、損益をみるのが目的ではなく、住民が受ける行政サービスのコスト（原価）計算に重点が置かれています。

例えば、官庁会計の歳入歳出決算書では、資産形成に関わる支出も単年度の行政サービスに関わる支出も、すべてその年度の歳入歳出を対象として収支を計算します。

一方で、地方公会計では、普通建設事業費や地方債償還費は資産・負債の増加や減少であり、費用の発生ではないので、行政コスト計算書には計上されません。また、歳入歳出決算書では計上されない減価償却費や退職手当引当金繰入等は、地方公会計では、期間損益の観点から、費用の発生として行政コスト計算書に計上されます。

経常費用を経常収益から差引いた純経常行政コストは、行政サービス提供にかかったコストから利用者の負担を差引いた純粋なコストを示します。

### ◆費用 : 行政サービス提供のために費やしたもの

#### ①人件費

職員給与や議員報酬、退職給付費用(当該年度に退職手当引当金として新たに繰り入れた額)など

#### ②物件費等

備品や消耗品、施設等の維持補修にかかる経費や減価償却費(社会資本の経年劣化等に伴う減少額)など

#### ③その他の業務費用

支払利息、徴収不能引当金繰入額、市町村債償還の利子など

#### ④移転費用

他会計への支出額、補助金等、社会保障給付、他団体への資産整備補助金など

### ◆収益 : 直接サービス提供により住民等がその対価として支払い、自治体が得られるもの

①令和2年度行政コスト計算書（単位：千円）

科目	一般会計等
経常費用	628,662
業務費用	600,041
人件費	68,699
職員給与費	60,842
賞与等引当金繰入額	4,564
退職手当引当金繰入額	-
その他	3,293
物件費等	530,955
物件費	345,610
維持補修費	2,326
減価償却費	183,019
その他	-
その他の業務費用	387
支払利息	387
徴収不能引当金繰入額	-
その他	-
移転費用	28,621
補助金等	28,554
社会保障給付	-
他会計への繰出金	-
その他	67
経常収益	76,101
使用料及び手数料	33,189
その他	42,912
純経常行政コスト	552,561
臨時損失	-
災害復旧事業費	-
資産除売却損	-
投資損失引当金繰入額	-
損失補償等引当金繰入額	-
その他	-
臨時利益	-
資産売却益	-
その他	-
純行政コスト	552,561

※数値は、四捨五入しているため、合計値が一部合致しない場合があります。

令和2年度の経常費用は一般会計等で約6億29百万円となっています。一方、行政サービス利用に対する対価として住民の皆さんが負担する使用料や手数料などの経常収益は一般会計等で約76百万円となっています。経常費用から経常収益を引いた純経常行政コストは一般会計等で約5億53百万円、今期は臨時損益が発生していない為、純行政コストも同額となっています。

② 行政コスト計算書 前年対比 (単位：千円)

科目	一般会計等		
	R1	R2	増減値
経常費用	581,145	628,662	47,516
業務費用	575,406	600,041	24,635
人件費	71,092	68,699	△ 2,393
職員給与費	63,756	60,842	△ 2,913
賞与等引当金繰入額	5,103	4,564	△ 539
退職手当引当金繰入額	1,921	-	-
その他	312	3,293	2,981
物件費等	503,885	530,955	27,071
物件費	313,010	345,610	32,600
維持補修費	4,092	2,326	△ 1,765
減価償却費	186,783	183,019	△ 3,764
その他	-	-	-
その他の業務費用	429	387	△ 43
支払利息	429	387	△ 43
徴収不能引当金繰入額	-	-	-
その他	-	-	-
移転費用	5,740	28,621	22,881
補助金等	5,669	28,554	22,885
社会保障給付	-	-	-
他会計への繰出金	-	-	-
その他	71	67	△ 4
経常収益	48,288	76,101	27,813
使用料及び手数料	33,528	33,189	△ 339
その他	14,760	42,912	28,153
純経常行政コスト	532,858	552,561	19,703
臨時損失	-	-	-
災害復旧事業費	-	-	-
資産除売却損	-	-	-
投資損失引当金繰入額	-	-	-
損失補償等引当金繰入額	-	-	-
その他	-	-	-
臨時利益	-	-	-
資産売却益	-	-	-
その他	-	-	-
純行政コスト	532,858	552,561	19,703

※数値は、四捨五入しているため、合計値が一部合致しない場合があります。

前年度と比較すると、経常費用は一般会計等で約 48 百万円の増加となっています。

一方、行政サービス利用に対する対価として住民の皆さんが負担する使用料や手数料などの経常収益は一般会計等で約 28 百万円増加となり、経常費用から経常収益を引いた純経常行政コストは一般会計等で約 20 百万円増加、今期は臨時損益が発生していない為、純行政コストも同額となっています。

### (3) 純資産変動計算書

純資産変動計算書は、地方公会計制度では純資産の変動を示すものと定義しています。純資産の変動とは、政策形成上の意思決定またはその他の事象による純資産及びその内部構成の変動としています。

純資産の減少は、現役世代が将来世代にとっても利用可能であった資源を費消して便益を享受する一方で、将来世代にその分の負担が先送りされたことを意味します。逆に純資産の増加は、現役世代が自らの負担によって将来世代も利用可能な資源を蓄積したことを意味するので、その分、将来世代の負担は軽減されたこととなります。

このような観点から、純資産の増減が、企業会計における利益及び損失の増減を示すものとも言い換えることができます。

#### (1) 余剰分の計算

##### ① 純行政コスト

行政コスト計算書の純行政コストと一致。

##### ② 財源

財源をどのような収入(税収等、国庫補助金)で調達したかを表します。

#### (2) 固定資産形成分

財源を将来世代も利用可能な固定資産、貸付金や基金等にどの程度使ったかを表します。

##### ① 固定資産等の変動

当該年度に学校、道路などの社会資本を取得した額と過去に取得した社会資本の経年劣化等に伴う減少額を表します。基金、貸付金、出資金など長期金融資産の当該年度における増加と減少を表します。

##### ② 資産評価差額

有価証券等の評価差額を表します。

##### ③ 無償所管換等

無償で譲渡または取得した固定資産の評価額等を表します。

① 令和2年度純資産変動計算書（簡易表示、単位：千円）

科目	一般会計等
前年度末純資産残高	5,588,599
純行政コスト（△）	△552,561
財源	370,856
税収等	370,856
国県等補助金	-
本年度差額	△181,705
固定資産等の変動（内部変動）	-
有形固定資産等の増加	-
有形固定資産等の減少	-
貸付金・基金等の増加	-
貸付金・基金等の減少	-
資産評価差額	-
無償所管換等	-
比例連結割合変更に伴う差額	-
その他	-
本年度純資産変動額	△181,705
本年度末純資産残高	5,406,894

※数値は、四捨五入しているため、合計値が一部合致しない場合があります。

令和2年度は、本年度末純資産残高が一般会計等において、約54億7百万円となっています。

② 純資産変動計算書 前年対比（単位：千円）

科目	一般会計等		
	R1	R2	増減値
前年度末純資産残高	5,776,386	5,588,599	△187,787
純行政コスト（△）	△532,858	△552,561	△19,703
財源	345,071	370,856	25,785
税収等	345,071	370,856	25,785
国県等補助金	-	-	-
本年度差額	△187,787	△181,705	6,082
固定資産等の変動（内部変動）	-	-	-
有形固定資産等の増加	-	-	-
有形固定資産等の減少	-	-	-
貸付金・基金等の増加	-	-	-
貸付金・基金等の減少	-	-	-
資産評価差額	-	-	-
無償所管換等	-	-	-
比例連結割合変更に伴う差額	-	-	-
その他	-	-	-
本年度純資産変動額	△187,787	△181,705	6,082
本年度末純資産残高	5,588,599	5,406,894	△181,705

※数値は、四捨五入しているため、合計値が一部合致しない場合があります。

前年度と比較すると、一般会計等では本年度末純資産残高が約1億82百万円（3.3%）の減少となっています。

## (4) 資金収支計算書

資金収支計算書は、地方公会計制度では、資金収支の状態をみるものと定義しています。資金収支の状態とは、自治体の内部者（首長、議会、補助機関等）の活動による資金の期中取引高を意味します。資金収支の状態は、地方公共団体の資金利用状況及び資金獲得能力を評価する上で有用な財務情報としています。

- ① 業務活動収支: 行政サービスを行なう中で、毎年度継続的に収入、支出されるもの
- ② 投資活動収支: 学校、公園、道路などの資産形成や投資、基金などの収入、支出など
- ③ 財務活動収支: 公債、借入金などの収入、支出など

### ① 令和2年度資金収支計算書（簡易表示、単位：千円）

科目	一般会計等
<b>【業務活動収支】</b>	
業務支出	446,182
業務費用支出	417,561
移転費用支出	28,621
業務収入	444,973
臨時支出	-
臨時収入	-
業務活動収支	△1,208
<b>【投資活動収支】</b>	
投資活動支出	-
投資活動収入	-
投資活動収支	-
<b>【財務活動収支】</b>	
財務活動支出	6,132
財務活動収入	13,800
財務活動収支	7,668
本年度資金収支額	6,460
前年度末資金残高	43,660
比例連結割合変更に伴う差額	0
本年度末資金残高	50,120

※数値は、四捨五入しているため、合計値が一部合致しない場合があります。

令和2年度の資金収支計算書を見ると、本年度資金収支額は一般会計等で6百万円の増加となり、資金残高は約50百万円に増加しました。

② 資金収支計算書（全体表示、単位：千円）

科目	一般会計等
【業務活動収支】	
業務支出	446,182
業務費用支出	417,561
人件費支出	69,238
物件費等支出	347,936
支払利息支出	387
その他の支出	-
移転費用支出	28,621
補助金等支出	28,554
社会保障給付支出	-
他会計への繰出支出	-
その他の支出	67
業務収入	444,973
税金等収入	370,856
国県等補助金収入	-
使用料及び手数料収入	33,189
その他の収入	40,928
臨時支出	-
災害復旧事業費支出	-
その他の支出	-
臨時収入	-
業務活動収支	△1,208
【投資活動収支】	-
投資活動支出	-
公共施設等整備費支出	-
基金積立金支出	-
投資及び出資金支出	-
貸付金支出	-
その他の支出	-
投資活動収入	-
国県等補助金収入	-
基金取崩収入	-
貸付金元金回収収入	-
資産売却収入	-
その他の収入	-
投資活動収支	-
【財務活動収支】	-
財務活動支出	6,132
地方債等償還支出	6,132
その他の支出	-
財務活動収入	13,800
地方債等発行収入	13,800
その他の収入	-
財務活動収支	7,668
本年度資金収支額	6,460
前年度末資金残高	43,660
比例連結割合変更に伴う差額	-
本年度末資金残高	50,120
前年度末歳計外現金残高	-
本年度歳計外現金増減額	-
本年度末歳計外現金残高	-
本年度末現金預金残高	50,120

※数値は、四捨五入しているため、合計値が一部合致しない場合があります。

③ 資金収支計算書 前年対比 (単位：千円)

科目	一般会計等		
	R1	R2	増減値
【業務活動収支】			
業務支出	392,382	446,182	53,799
業務費用支出	386,643	417,561	30,918
人件費支出	69,112	69,238	127
物件費等支出	317,101	347,936	30,834
支払利息支出	429	387	△ 43
その他の支出	-	-	-
移転費用支出	5,740	28,621	22,881
補助金等支出	5,669	28,554	22,885
社会保障給付支出	-	-	-
他会計への繰出支出	-	-	-
その他の支出	71	67	△ 4
業務収入	393,359	444,973	51,615
税込等収入	345,071	370,856	25,785
国県等補助金収入	-	-	-
使用料及び手数料収入	33,528	33,189	△ 339
その他の収入	14,760	40,928	26,169
臨時支出	-	-	-
災害復旧事業費支出	-	-	-
その他の支出	-	-	-
臨時収入	-	-	-
業務活動収支	976	△1,208	△ 2,185
【投資活動収支】			
投資活動支出	1,426	-	-
公共施設等整備費支出	1,426	-	-
基金積立金支出	-	-	-
投資及び出資金支出	-	-	-
貸付金支出	-	-	-
その他の支出	-	-	-
投資活動収入	-	-	-
国県等補助金収入	-	-	-
基金取崩収入	-	-	-
貸付金元金回収収入	-	-	-
資産売却収入	-	-	-
その他の収入	-	-	-
投資活動収支	△1,426	-	-
【財務活動収支】			
財務活動支出	6,089	6,132	43
地方債等償還支出	6,089	6,132	43
その他の支出	-	-	-
財務活動収入	-	13,800	-
地方債等発行収入	-	13,800	-
その他の収入	-	-	-
財務活動収支	△6,089	7,668	13,757
本年度資金収支額	△6,538	6,460	12,998
前年度末資金残高	50,198	43,660	△ 6,538
比例連結割合変更に伴う差額	-	-	-
本年度末資金残高	43,660	50,120	6,460
前年度末歳計外現金残高	-	-	-
本年度歳計外現金増減額	-	-	-
本年度末歳計外現金残高	-	-	-
本年度末現金預金残高	43,660	50,120	6,460

※数値は、四捨五入しているため、合計値が一部合致しない場合があります。

### 3. 令和2年度 各項目別 実数分析

ここでは各項目別に、令和元年度分との比較を行っていきます。

#### (1) 貸借対照表にかかる項目

##### ① 資産の構成割合（単位：千円、％）

これまでどのような資産が構成されたのかを計るとともに、岩内地方衛生組合における資産形成の特徴が把握可能となります。

岩内地方衛生組合における資産の構成を見ると、事業用資産が99.1%で、他は物品と流動資産が占めています。資産価値の減少は、主に減価償却に伴う資産の老朽化が要因です。

項目	岩内地方衛生組合		増減
	R元年度	R2年度	
有形固定資産	5,614,796	5,431,777	△183,019
事業用資産	5,614,164	5,431,777	△182,387
物品	632		△632
流動資産	43,660	50,120	6,460
資産合計	5,658,456	5,481,897	△176,559
項目 (資産合計に対する構成比)	岩内地方衛生組合		増減
	R元年度	R2年度	
有形固定資産	99.2%	99.1%	99.9%
事業用資産	99.2%	99.1%	99.9%
物品	0.0%	0.0%	0.0%
流動資産	0.8%	0.9%	118.5%
資産合計	100.0%	100.0%	100.0%

※数値は、四捨五入しているため、合計値が一部合致しない場合があります。

② 有形固定資産の形成割合（単位：千円、％）

科目	金額	割合
土地（事業用）	1,336	0.02%
建物（事業用）	5,430,441	99.98%
合計	5,431,777	100.0%



※数値は、四捨五入しているため、合計値が一部合致しない場合があります。

最も多くの投資を行った資産は、建物（事業用資産）の99.98%、次いで土地（事業用）の0.02%となります。

③ 資産老朽化比率（単位：千円、％）

有形固定資産のうち、土地以外の償却資産（建物や工作物等）の取得価額に対する減価償却累計額の割合を計算することにより、法定耐用年数に対して償却資産の取得からどの程度経過しているかを把握することができます。100%に近いほど耐用年数に近づき、古い施設が多いことを表す指標となります。

岩内地方衛生組合においては、30.7%となっており、今後の計画的な資産更新が必要になります。

項目	岩内地方衛生組合		増減
	R元年度	R2年度	
償却資産取得価額合計	7,835,274	7,835,274	0
減価償却累計額	2,221,814	2,404,833	183,019
資産老朽化比率（有形固定資産償却率）	28.4%	30.7%	108.2%
【参考】事業用資産	28.1%	30.4%	108.3%

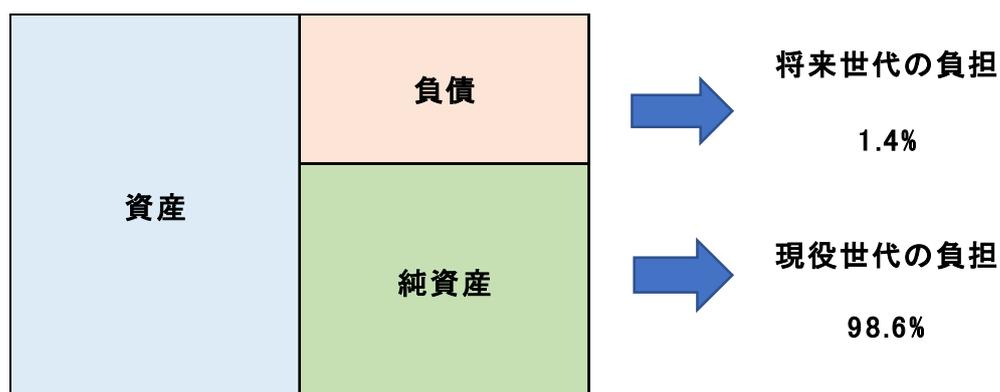
※数値は、四捨五入しているため、合計値が一部合致しない場合があります。

#### ④ 純資産比率（単位：千円、％）

純資産は形成した資産に対して、税収や補助金でどの程度賄われたのかを計るもので、純資産比率（資産合計に対する純資産合計の割合）で確認することができます。

項目	岩内地方衛生組合		増減
	R元年度	R2年度	
資産合計	5,658,456	5,481,897	△ 176,559
負債合計	69,857	75,002	5,145
純資産合計	5,588,599	5,406,894	△ 181,705
純資産比率	98.8%	98.6%	99.9%
負債比率	1.2%	1.4%	110.8%

※純資産比率のイメージ



#### ⑤ 資産合計対地方債割合（単位：千円、％）

資産形成に対して地方債の残高がどの程度含まれているのかをみるものです。資産に対して、地方債残高の割合をみると、岩内地方衛生組合は1.2%で、前年度と比較すると117.2%増加しています。

項目	岩内地方衛生組合		増減
	R元年度	R2年度	
資産合計	5,658,456	5,481,897	△ 176,559
地方債残高	56,760	64,428	7,668
資産合計対地方債割合	1.0%	1.2%	117.2%

## (2) 行政コスト計算書にかかる項目

### ① 経常費用の構成割合（単位：千円、％）

経常費用の構成割合をみます。この割合を他団体との比較をすることによって、岩内地方衛生組合がどのコストに重点的に充てられているのか、また、どのようなことに使われているのかがわかります。

岩内地方衛生組合においては、業務費用が95.4%、移転費用が4.6%で構成されており、業務費用を細分化すると、人件費が10.9%、物件費等に84.5%、その他の業務費用が0.1%となっています。

項目	岩内地方衛生組合		増減
	R元年度	R2年度	
経常費用	581,145	628,662	47,516
業務費用	575,406	600,041	24,635
人件費	71,092	68,699	△2,393
物件費等	503,885	530,955	27,071
その他の業務費用	429	387	△43
移転費用	5,740	28,621	22,881
項目 (経常費用に対する構成比)	岩内地方衛生組合		増減
	R元年度	R2年度	
経常費用	100.0%	100.0%	-
業務費用	99.0%	95.4%	96.4%
人件費	12.2%	10.9%	89.3%
物件費等	86.7%	84.5%	97.4%
その他の業務費用	0.1%	0.1%	83.2%
移転費用	1.0%	4.6%	461.0%

※数値は、四捨五入しているため、合計値が一部合致しない場合があります。

### ② 減価償却費の状況（単位：千円、％）

減価償却費の割合が高くなると、資産老朽化比率にも大きく起因するところであり、資産老朽化比率が低いと減価償却費が行政コスト全体に占める割合も高くなります。

また、償却資産合計に対する減価償却費の割合をみると、3.4%となっています。これは単純に考えると、新たな資産を形成しない限り、今後資産老朽化比率が毎年3.4%増加することになります。したがって、資産の形成については計画的に行うことが重要となります。

項目	岩内地方衛生組合		増減
	R元年度	R2年度	
減価償却費	186,783	183,019	△ 3,764
経常費用	581,145	628,662	47,517
対経常費用 減価償却費割合	32.1%	29.1%	90.6%
償却資産合計	5,613,460	5,430,441	△183,019
対償却資産合計 減価償却費割	3.3%	3.4%	101.3%
資産合計	5,658,456	5,481,897	△176,559
対資産合計 減価償却費割合	3.3%	3.3%	101.1%

### ③ 移転費用の状況（単位：千円、％）

行政サービス提供の全てを一般会計等だけで行っているわけではありません。行政サービスの一端を担う団体への補助金や住民の民生（扶助）や他事業（他会計）の負担も行う必要があり、このコストも大きなものになります。

岩内地方衛生組合の経常費用全体の構成は、補助金等が4.5%、その他の移転費用がその他を占めています。

項目	岩内地方衛生組合		増減
	R元年度	R2年度	
経常費用	581,145	628,662	47,516
移転費用	5,740	28,621	22,881
補助金等	5,669	28,554	22,885
その他	71	67	△4
項目 (経常費用に対する構成比)	岩内地方衛生組合		増減
	R元年度	R2年度	
経常費用	100.0%	100.0%	-
移転費用	1.0%	4.6%	461.0%
補助金等	1.0%	4.5%	465.6%
その他	0.0%	0.0%	87.2%

※数値は、四捨五入しているため、合計値が一部合致しない場合があります。

【参考：地方公会計における資産】

■資産の定義

地方公会計制度における資産とは、「過去の事象の結果として、特定の会計主体が支配するものであって、将来の経済的便益が当該会計主体に流入すると期待される資源、または当該会計主体の目的に直接もしくは間接的に資する潜在的なサービス提供能力を伴うものをいう。」としています。

■固定資産の体系

固定資産は有形固定資産、無形固定資産、投資その他の資産の3つに分類され、それぞれ固定資産台帳の整備が求められています。

